

# これまでの河川整備の効果 淀川水系木津川上流 [上野遊水地]

○昭和28年台風13号洪水で甚大な被害を受けた上野地区において、平成27年より上野遊水地の運用を開始。  
 ○台風21号において、木津川及び服部川で、運用開始以来初めて4つの遊水地に越流し、約600万立方メートルを貯留。  
 ○遊水地の整備により上野地区において約160haの浸水面積、約760戸の浸水戸数の被害を解消できたと推定。

## 位置図

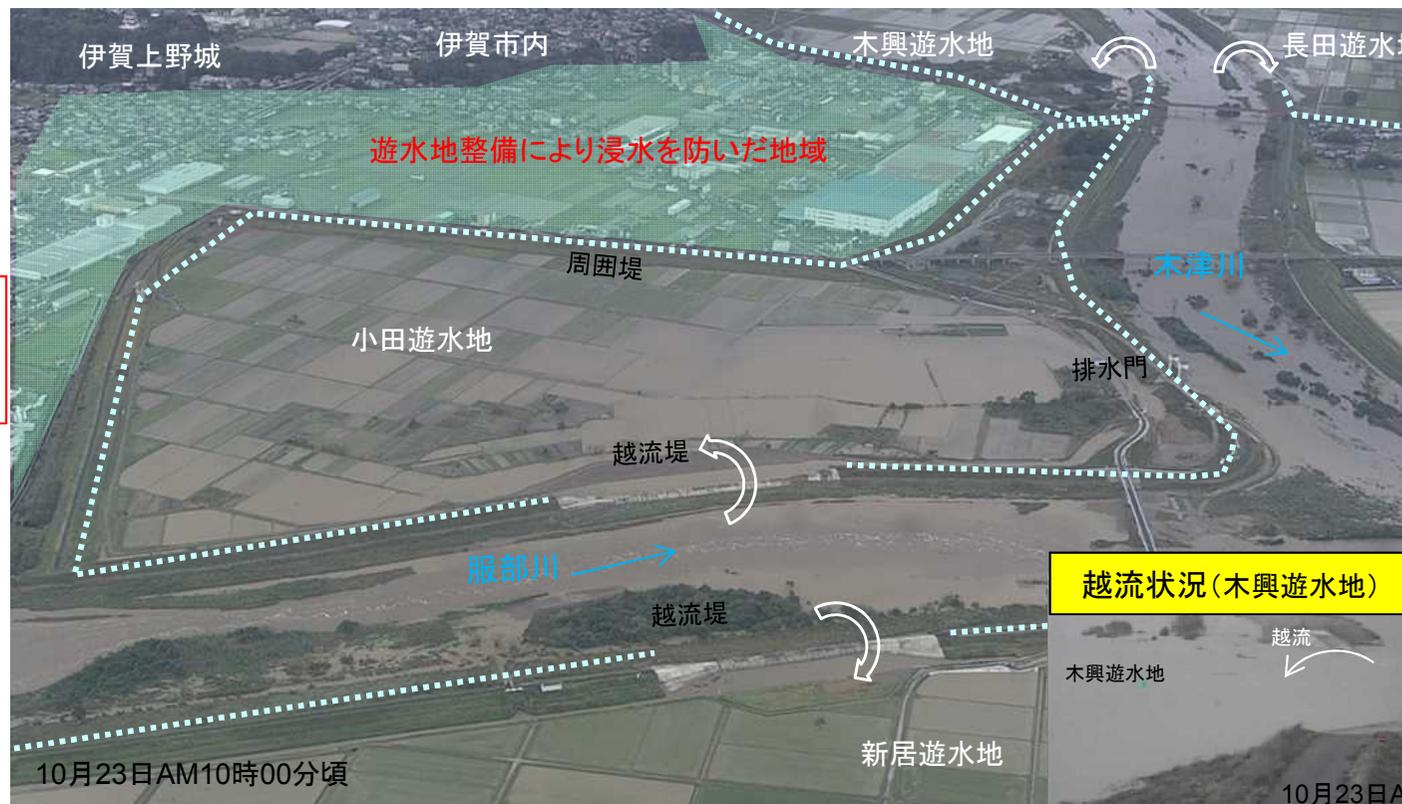


今回の出水において、遊水地整備により浸水が防がれた地域 (浸水範囲約160ha、浸水戸数約760戸)

## 上野遊水地の効果



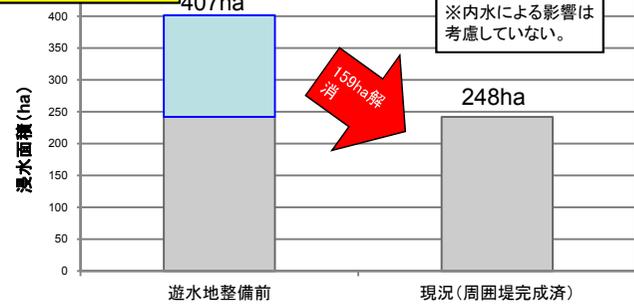
## 越流状況(全体)



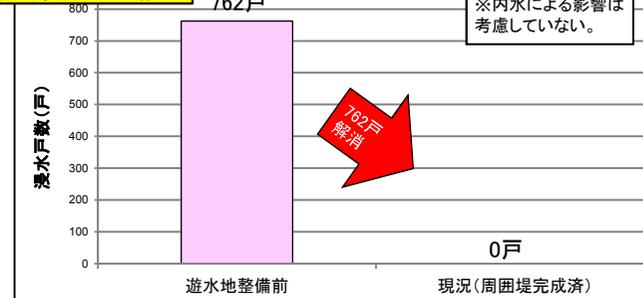
## 越流状況(木興遊水地)



## 浸水面積の比較



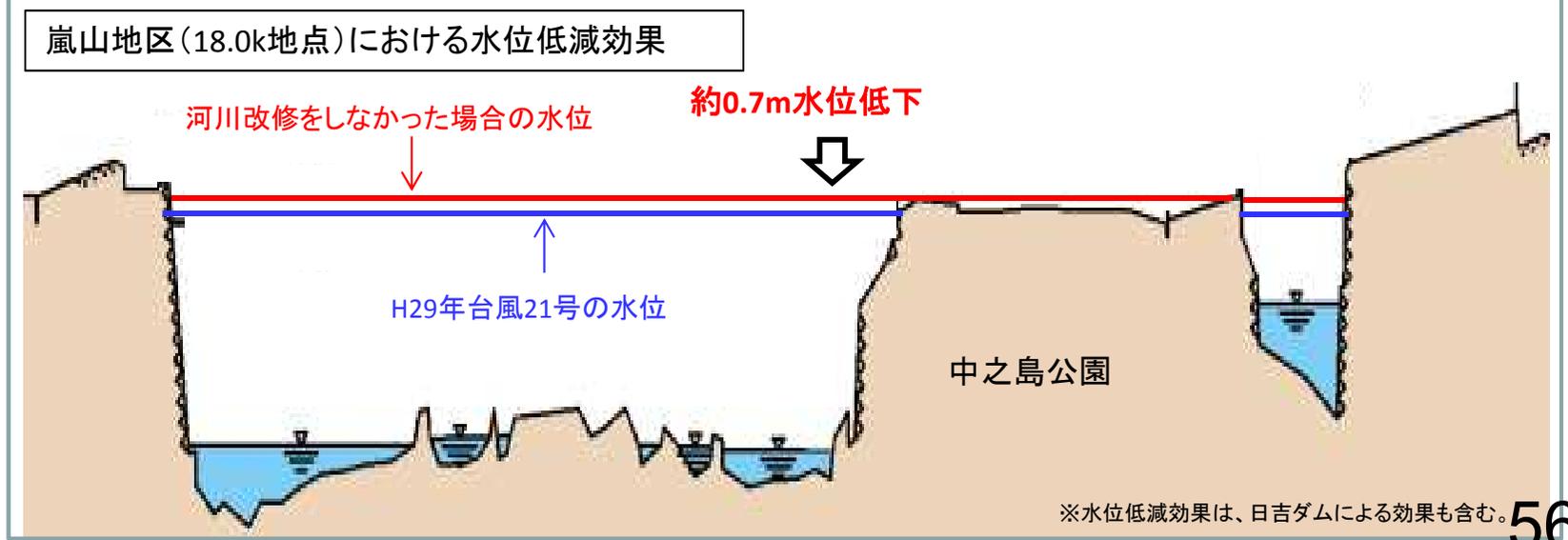
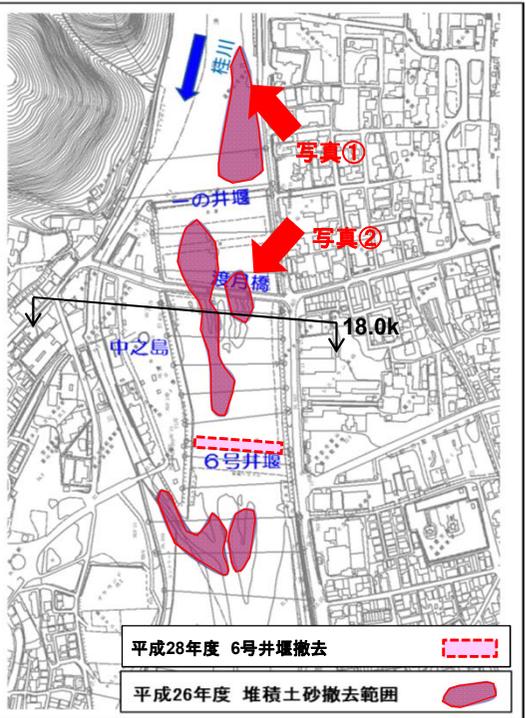
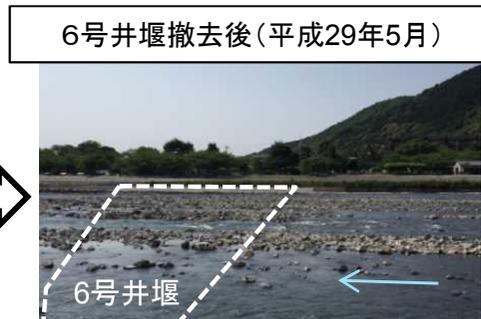
## 浸水戸数の比較



※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

# これまでの河川整備の効果 淀川水系桂川 [嵐山地区]

○桂川では平成25年台風18号を踏まえ、緊急治水対策として河川整備計画の事業を大幅に前倒しして実施。  
 ○嵐山地区では、これまでに実施した堆積土砂撤去及び6号井堰撤去と日吉ダムにより、水位を約0.7m低下したため、中之島公園の浸水解消。



▲嵐山地区における堆積土砂撤去 (掘削量4,500m<sup>3</sup>)

- 台風21号洪水により、大和川では亀の瀬上流の26.8k右岸(三郷町)等において溢水が発生。
- その他区間においても計画高水位を超過したものの、堤防破堤は免れた。
- 大和川では戦後最大洪水(昭和57年)と同規模と推測。

○昭和57年8月洪水

【降雨規模】柏原地点上流146mm/12h

【浸水被害】

- ・大阪府域：西除川、今井戸川において溢水  
浸水戸数 約11,000戸
- ・奈良県域：初瀬川左岸破堤、佐保川、葛下川で溢水  
浸水戸数 約10,500戸

○平成29年台風21号洪水

【降雨規模】柏原地点上流155mm/12h

【浸水被害】

- ・大阪府域：柏原市において溢水  
浸水家屋は無し ※詳細は調査中
- ・奈良県域：三郷町、王寺町において溢水  
浸水戸数 約250戸 ※詳細は調査中



◀ 葛下川から溢水し、王寺町中心部が浸水



三郷町溢水

王寺町溢水



▲ 初瀬川の破堤



王寺町役場付近において甚大な被害が発生

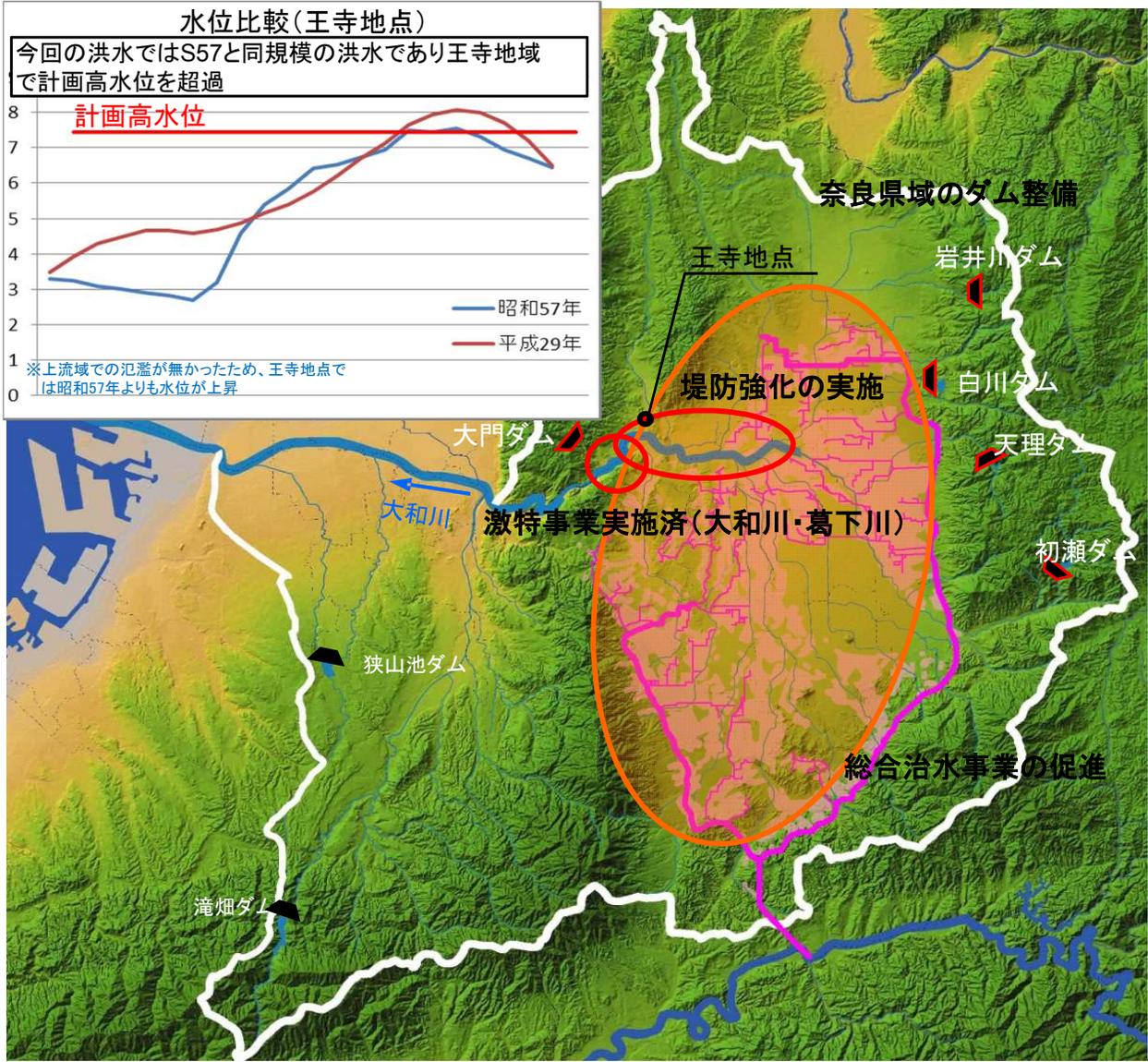


10月23日9:00撮影

◀ 保田地区でも堤防高まであと50cm程度のところまで水位が上昇

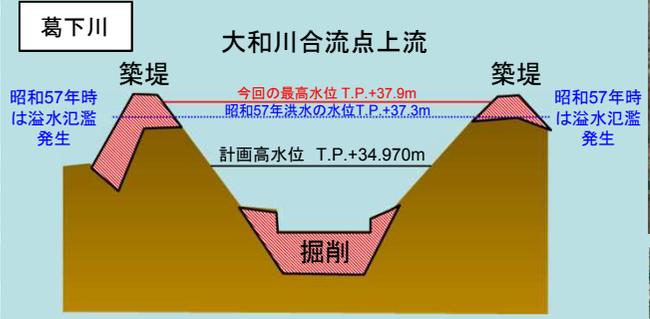
○大和川では戦後最大洪水(昭和57年)により流域全体で甚大な被害が発生したが、これまでの河川整備(河川激甚災害対策特別緊急事業やダム整備等)により、昭和57年に甚大な被害が発生した王寺駅周辺においては、葛下川等の水位を低減し、氾濫を防いだ。

○奈良県域におけるこれまでの治水対策と効果



①河川激甚災害対策特別緊急事業(S57~61)

- ・大和川本川: 葛下川との合流点下流部の河道掘削
- ・葛下川: 河道掘削、築堤、橋梁架替



※昭和57年洪水と同規模の洪水のため、激特事業において実施した掘削及び築堤工事により氾濫すること無く、川の中で流下することができた。

②ダム整備(奈良県)

- ・4つのダムを整備(岩井川ダム、白川ダム、天理ダム、初瀬ダム)

③総合治水事業

- ・総合治水事業を推進(ため池治水利用、雨水貯留浸透施設等)

④堤防強化

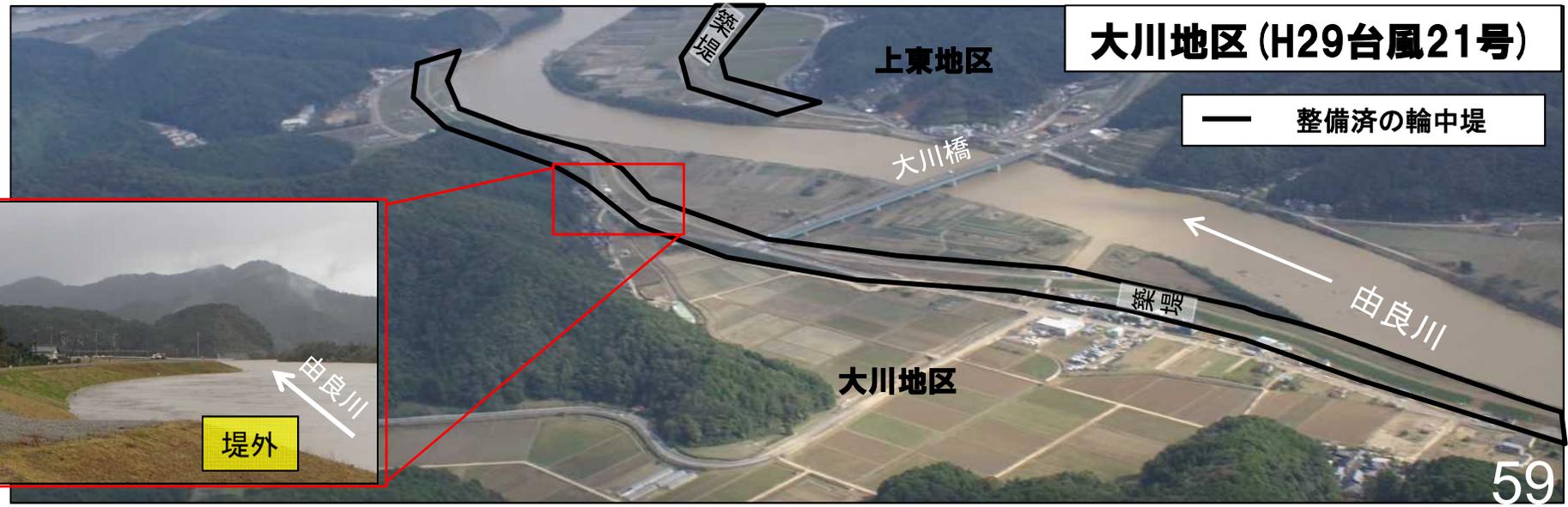
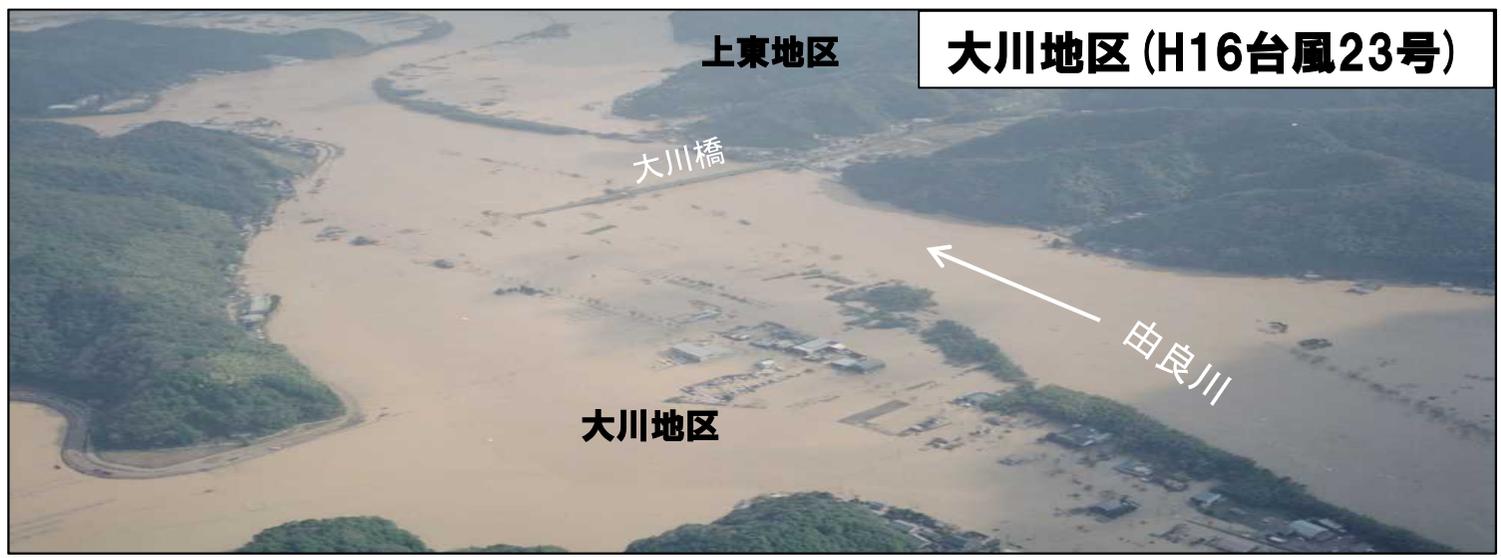
- ・堤防の浸透・侵食対策を推進(亀の瀬付近~直轄上流端)

これらの結果、今回出水で**計画高水位を超過するものの、破堤せず、ギリギリのところ**で洪水を流下することができた。

○引き続き、奈良県域のさらなる治水安全度向上にむけ、**戦後最大規模の洪水を計画高水位以下で安全に流下させる**大和川遊水地の整備や河道掘削を推進する。

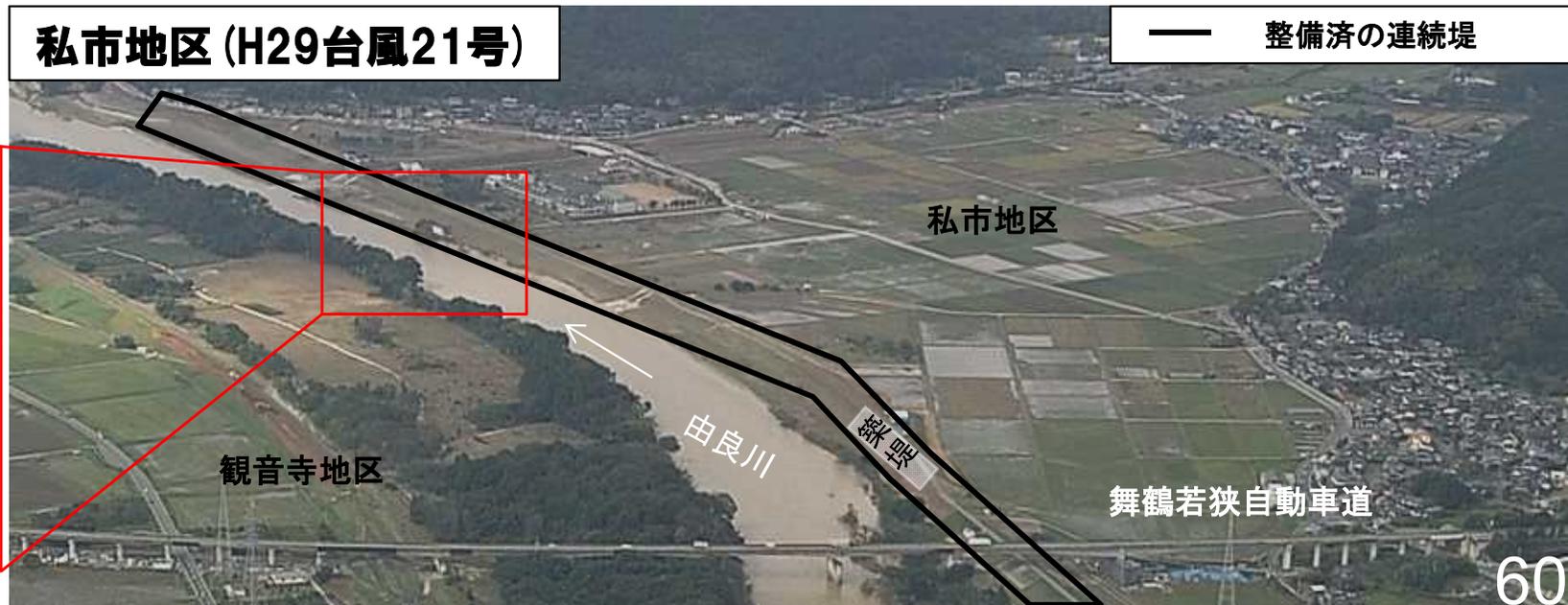
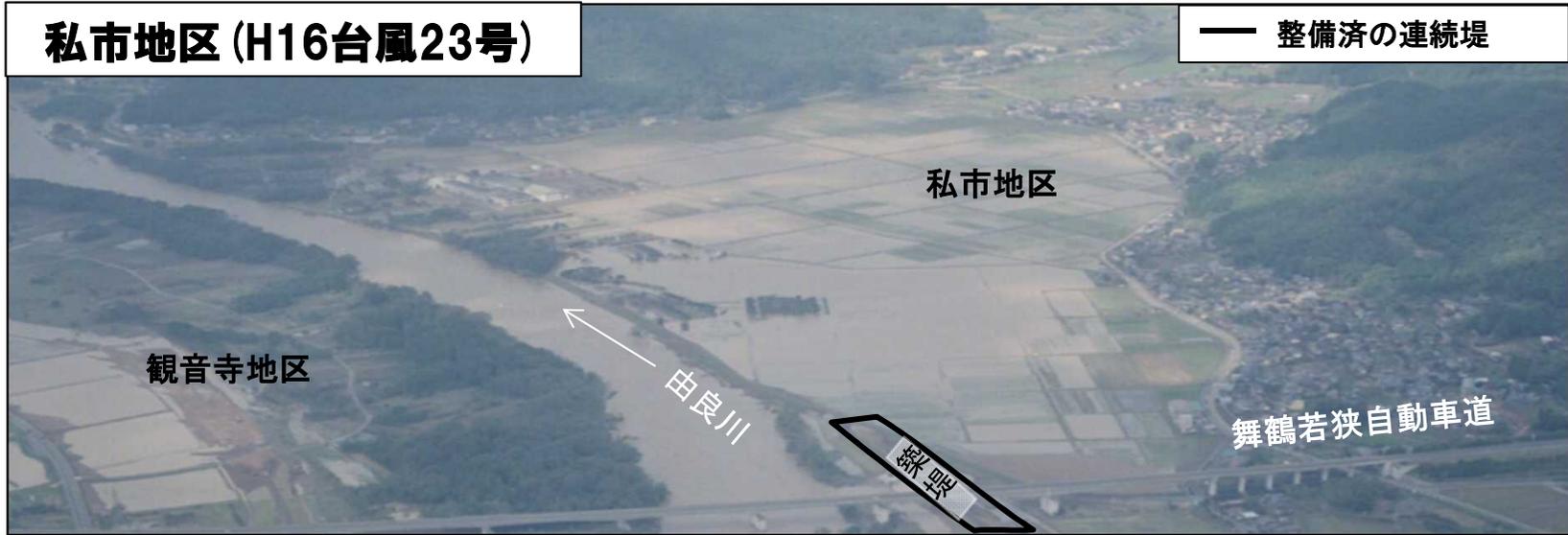
※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

○由良川水系では、平成16年台風23号を契機に「由良川下流部緊急水防災対策」を実施。  
○平成29年台風21号洪水は、福知山地点で平成16年台風23号に匹敵する水位を記録したが、下流部で実施した輪中堤が完成していたため、由良川からの浸水が解消。



※内水被害は発生。

○由良川水系では、平成25年台風18号を契機に「緊急的な治水対策」を実施。  
 ○平成29年台風21号洪水は、福知山地点で平成16年台風23号に匹敵する水位を記録したが、中流部で実施していた私市地区の築堤が完成していたため、由良川からの浸水が解消。



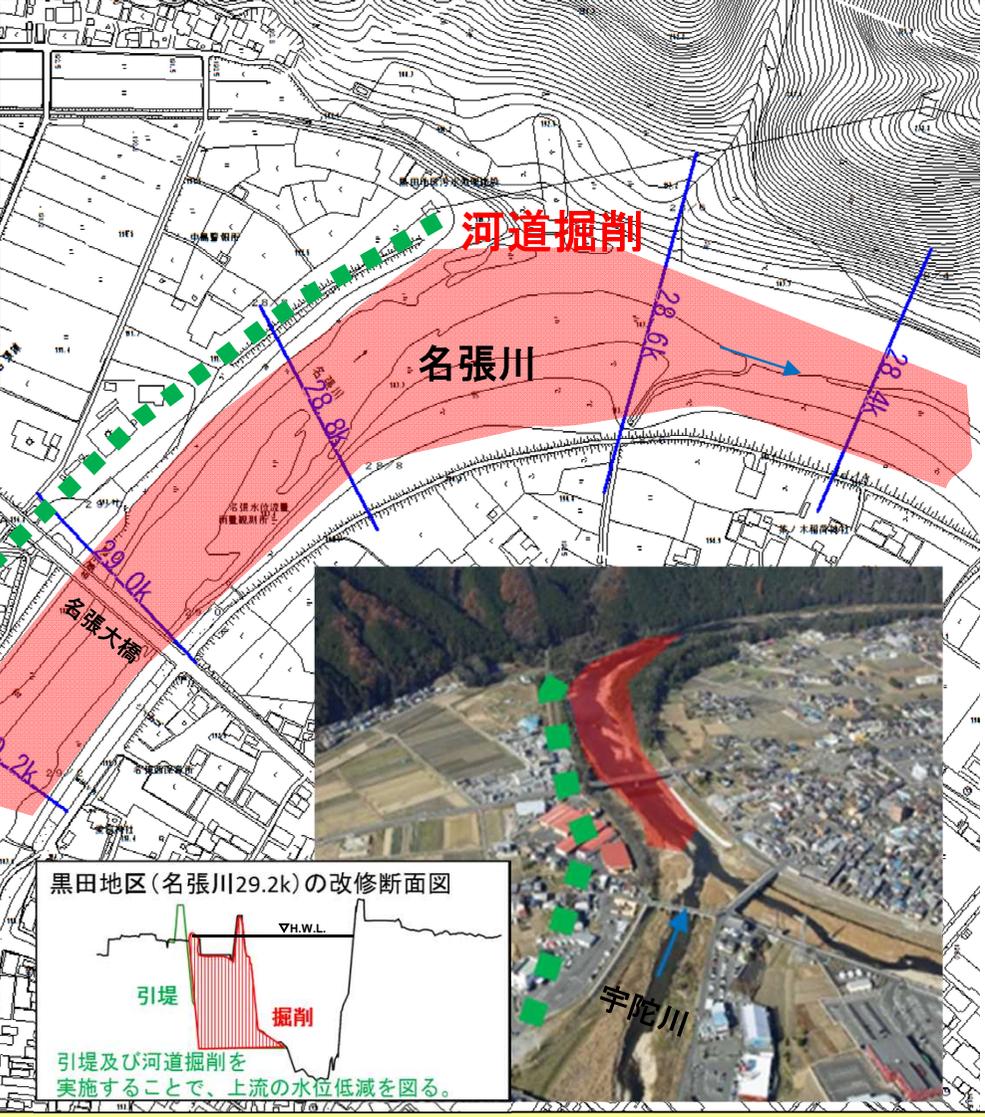
※内水被害は発生。

- 由良川水系では、平成25年台風18号を契機に「緊急的な治水対策」を実施。
- 平成29年台風21号洪水時には福知山地点で平成16年台風23号に匹敵する水位を記録し、中流部で事業実施中の戸田・川北地区では床上浸水約33戸、床下浸水約29戸の浸水被害が発生。
- 中流部の事業が完了すれば、由良川からの浸水被害は解消。



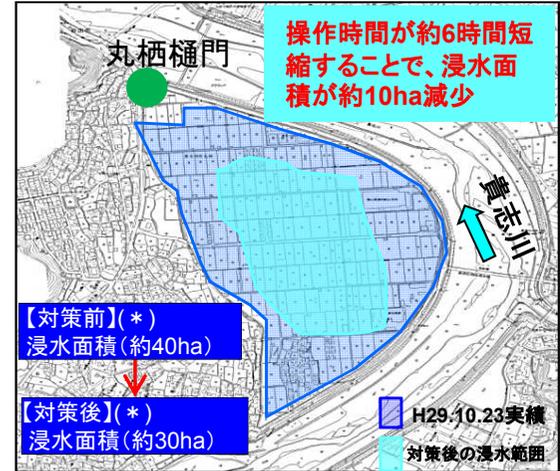
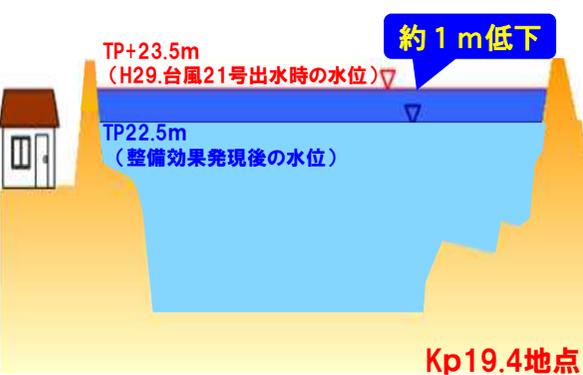
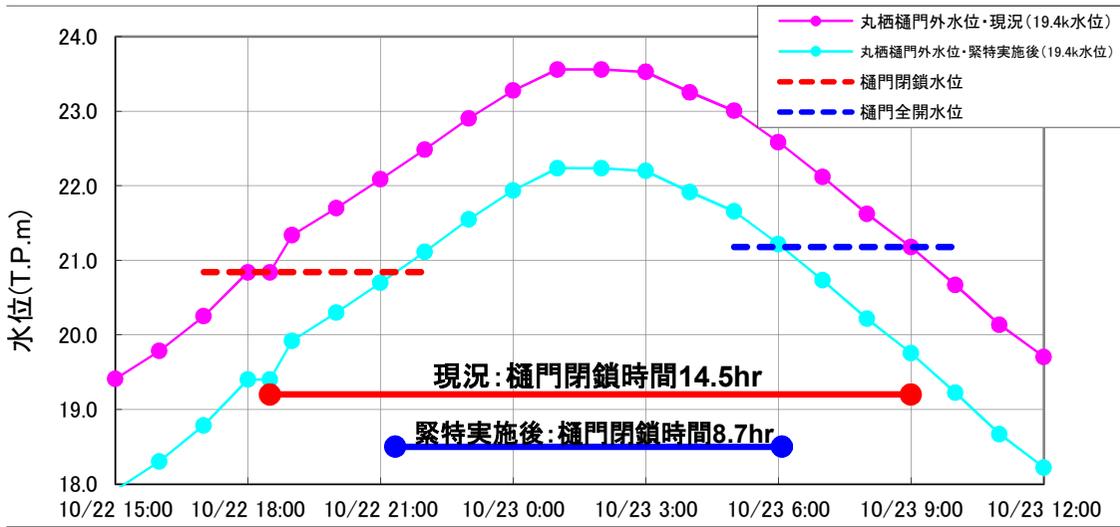
# 今後の河川整備の効果 淀川水系名張川〔黒田地区 引堤・河道掘削〕

○平成29年台風21号洪水により、<sup>みのわ</sup>箕曲地区（宇陀川0.6k右岸）で溢水が発生。  
 ○黒田地区の引堤や河道掘削を実施することにより、箕曲地区で水位を約0.7m低減可能となり、名張川の改修事業後、溢水被害は解消。



整備計画の名張川改修を実施することにより、今回の出水の箕曲地区の溢水被害は解消される。 62

- 紀の川支川貴志川の下流部は、過去から沿川で浸水被害が頻発。
- 現在、河道掘削70万m<sup>3</sup>および井堰に拡幅水路設置工事(平成32年度完成予定)を実施しており、これらの整備により井堰上流側の水位を約1m低下。
- 平成29年台風21号出水において、上記の整備効果が発現すれば、支川貴志川の樋門操作時間を約6時間短縮することで、浸水面積が約10ha減少すると想定。



(\*)上記の浸水面積は、H23.T12号の実績値を元にした想定値